

進路選択

各大学における入学者の選抜は、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた者を入学させるため、高校教育を乱さないよう配慮して、各大学・学部・学科等の独自の教育方針に即した適切な選抜方法によって行われており、これの検証とそれに基づく選抜方法の改善は、各大学の入試に関する調査研究の重要課題である。受験者の進路選択と入学後の動向に関する調査研究は、その一環として行われているものである。

本課題に関する調査研究は、アンケートによる入学前後の進路意識調査、アンケートによる高校教育・進路指導調査、入試データに基づく進学状況・成績調査、学務データに基づく入学者の動向・成績調査及びこれらの数種を組み合わせた調査の方法を用いて行われ、その研究成果は、入学者選抜方法の検討資料として活用されているが、これらの調査研究の状況をいくつかの項目に分けて述べることにする。

(1) 高校における学習と受験者等の進路選択

○高校生を対象とした調査研究

3大学で実施しているが、いずれも進路意識調査である。山梨大学では、県内の高校生について共通1次試験と学習との関係を調査し、長岡技術科学大学では工業高校生について、山口大学農学部では農業高校生について、いずれも学科選択、履修科目、進学等に関する全国規模

の調査を行い、推薦入学制や大学教育の検討資料としている。

○受験者を対象とした調査研究

3大学等で実施し、いずれも進学意識調査である。山梨大学教育学部では技能教科の受験者の共通1次試験実施前後の動向調査を行い、山口大学経済学部では推薦入学受験者（商業高校生）の進学意識の変化傾向を調査し、入学者選抜方法の改善資料としている。また、大学入試センターでは、受験者の属性と進学状況との関係について追跡調査を行っている。

○新入生を対象とした調査研究

12大学で実施し、いずれも進学意識調査を主体とし、本人の属性と関連づけて研究しているものが多い。

入学前の当該大学についての知識について、2大学で調査しているが、九州芸術工科大学の調査では知識度は中位であった。

当該大学・学部・学科等を志望した動機・理由については、東京工業大学、大阪大学、九州芸術工科大学、九州工業大学の4大学の調査では“能力・個性の適合”が共通して多く、このほかに“学費”、“地理的条件”、“将来の職業”等があげられており、また目的についての東京工業大学の調査では、約半数が“先端的技术の修得”をあげ、“将来の職業”に関するものがこれに続く。なお、動機・理由として、共通1次試験の自己採点結果をあげているものは、東京工業大学、九州芸術工科大学等4大学の調

査では極めて少ない。

受験を決定した時期について、九州芸術工科大学と九州工業大学の調査では、約80パーセントが高校2～3年で決定し、前者の場合、浪人については、前年の志望を変更した者が54年度以降に急増している。

併願した大学・学部等についての東京工業大学と九州芸術工科大学の調査では、いずれも大半の者が同一系統の学部を志願していた。

試験問題の難易度については、京都工芸繊維大学等3大学が調査し、また、入試の方法については、東京工業大学等5大学が調査している。

入学後の志望については、山梨大学教育学部が教職志望の有無を調査し、大阪大学は将来の職業等について調査している。

入試結果と進路意識調査とを併用して研究を行っている大学は2大学で、信州大学工学部では大学入試の問題点を探り、神戸商船大学では自己評定を中心とした相関調査を行っている。

○入学辞退者を対象とした調査研究

21大学で詳細な調査研究を行っているが、54年度以降に辞退率の低下した大学、変化しない大学、増加した大学は、それぞれ5大学、3大学、4大学である。アンケート調査により、辞退者の実態を分析している12大学の調査研究結果について述べる。

地域別辞退率は、県内よりも県外が高く（岡山大学・広島大学）、遠隔地になるほど高い（大阪大学）。学部別辞退率は、教員養成系学部、理科系学部、文科系学部の順に高い（岡山大学）。志望別辞退率は、第1、第2、第3志望の順に高い（岡山大学）。現浪別辞退率は、2浪以上、現役、1浪の順に高い（岡山大学）。

辞退者の進路は、東京の私立大学への入学が過半数を占め（大阪大学・岡山大学・広島大学・横浜国立大学）、他大学入学者中、半数以上は同系統の学部に入學していた（岡山大学）。辞退理由は、入学大学が第1志望が最も多く、卒業後の就職、志望学科の相違等がこれに続く（岡山大学・佐賀大学）。

辞退者の学科志望順位と入試成績との間には有意の差はない（大阪大学・岡山大学・香川大学）。

(2) 高校における進路指導

○高校教師を対象とした調査研究

長岡技術科学大学では、全国規模のアンケート調査を行って工業高校生の選抜方法を検討し、大学入試センターでは、大学入試の高校教育への影響に関する調査研究を行っている。

○新入生を対象とした調査研究

3大学で進学意識調査の1項目として実施しているが、それによれば高校での進路指導は余り行われていない（大阪大学・九州芸術工科大学・九州工業大学）。

(3) 大学入学後の動向

○大学生を対象とした調査研究

高知大学では、生活形態や課外活動について調査し、静岡大学・愛知教育大学では、調査の結果教育学部において教育実習の効果が認められたとし、富山医科薬科大学では、2次募集入学者は学習意欲や目的意欲に乏しい点を指摘している。

進路選択

○大学教官を対象とした調査研究

高知大学では、共通1次試験前後の入学者の実態の変化を比較しているが慎重意見が多い。東京商船大学では、学生募集や第2次試験のあり方について調査している。

○休・退学者及び留年者に関する調査研究

休・退学者については、8大学において詳細な研究を行っている。54年度以降に急激に増加している大学は、鳥取大学・長崎大学等4大学で、その理由は他大学受験が多い。カリキュラム、第2次募集、社会情勢の変化などの面から検討が行われている。

留年者については、9大学において詳細な研

究が行われ、54年度以降に増加している（旭川医科大学・長崎大学）、浪人に多い（旭川医科大学）、第2次募集入学者に多い（鳥取大学）、寮生活の男子に多い（高知大学）、などの報告があり、入試方法等の面から検討が加えられている。

受験者の進路選択と入学後の動向に関する調査研究から、今後の問題点である、入学者選抜方法のあり方の検討と改善のほか、入学後の転学科等や大学教育・研究条件を考慮した学生指導、高校側の適切な進路指導、それに必要な大学側の資料提供等を積極的に推進することが望まれる。